

第252回鳳雛講座 令和6年12月11日(水)

12月11日(水)に今年度8回目の鳳雛講座を行いました。講師は大館市立総合病院救命救急センターにお勤めの、救急看護認定看護師でありDMAT隊員の糠塚拓道さんが務めてくださいました。市立病院での勤務のみならず、被災した地域や被災者のために力を尽くしていることを丁寧にお話しくださり、参加した生徒たちは大変熱心に聞き入っていました。

現場で働く職業人から貴重なお話を聞くことができる、他校にはない一中の鳳雛講座。残すは1月のラスト1回となります。生徒にはぜひ、積極的に参加することで将来における選択肢を広げてほしいと思います。

○講話の内容

・看護師の仕事とは

療養上の世話と診療の補助を行うことが、看護師の主な業務となる。入院している患者の状態に応じて、生活上の様々なことを安全に行うことができるように、食事やトイレの補助を行っている。また、医師の診察の際には必要なサポートを行う。看護師になるための道筋はいくつかあるが、最終的に国家試験に合格することが不可欠。男性の看護師は全体の1割ほどとなっている。

・救急看護認定看護師とは…

認定看護師とは、患者やその家族によりよい看護を提供したり、病院全体の看護の質を高めたりするために専門的な知識や技能を身に付けた人が認定されるもの。看護師免許を取得して5年以上の実務を経た者が、認定看護師教育機関で半年の研修を受け、認定審査に合格することで認定される。看護の分野に応じて詳細に分かれており、現在19の分野に分かれている。日本全国には180万人の看護師がいるが、そのうち認定看護師は2万人。

・DMAT(災害派遣医療チーム)について

災害現場において、防ぐことができた災害死を減らすために組織された医療チームをDMATと呼ぶ。災害時には、通常の医療の提供が困難になるため、これを解消するため必要に応じて広域医療搬送を行ったり、災害現場に出動して現地で必要な医療活動をしたりする。DMAT隊員になるためには、DMAT指定医療機関で仕事をした上で4日間のDMAT研修を受け、最後に認定試験に合格する必要がある。DMATは5、6名で1組のチームとなっており、医師1名、看護師1、2名、業務調整員2、3名で構成される。現地の医療資源を消耗しないために、現場入りするDMAT隊は、必要な医療資源や自分たちの食料などを全て持ち込んでいく。活動は1週間ほどの期間で、その後別のチームや現地の病院に患者の引き継ぎを行う場合が多い。

○生徒の感想から

- ・「全ては被災者のために」という心がけで働くDMAT隊のことを知ることができた。一般の看護師よりも更に多くの研修や訓練を積んで緊急時に備えていることが分かった。
- ・認定看護師という制度が多く分野に分かれていることや、「実践・指導・相談」という3つの役割でよりよい医療のために働いているということが分かった。
- ・よりよい医療のために、多くの人たちが連携して仕事をしていることを知ることができた。自分も将来、糠塚さんのようにやりがいのある仕事に就けるよう、頑張りたい。





